【授業科目】細胞診断学演習VII(リンパ節・骨軟部・その他) Practice of Diagnostic Cytology VII (Lymphatic System, Bone and Soft Tissue, Others)

担当教員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への 授業公開
白石 泰三、澤田 浩秀、郡司 昌治 今野 和治、山本 雄一		4 年次 後 期	自由	3	135	演習	あり	巻末 掲載	可
授業概要 (内容と進め方)	細胞検査士養成課程の専門科目として、リンパ節、造血器系、骨軟部、中枢神経系などの細胞診断について学修する科目である。本領域においては、骨髄穿刺液、脳脊髄液などの検体、またはリンパ節、骨軟部からの穿刺吸引、捺印などによって得られた検体を扱う。本領域における良性および悪性腫瘍をはじめ、造血器における反応性病変、骨軟部感染症などの細胞学的特徴についての知識を得ることにより、実際の診断に結び付けられるよう教授する。 課題に対するフィードバック方法/レポート提出を課した場合は、提出されたレポートにコメントを付けて返却する。								
実務経験に関する 授業内容	細胞診専門医、細胞検査士の臨床経験をもつ教員が、細胞検査士養成課程の学生に必用な実践的なリンパ節・骨軟部等の細胞診断の知識および技術について、細胞診断学の資料・教材を交えながら講義および実技指導を行う科目である。								
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。								
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①リンパ節疾患の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。 ②造血器疾患の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。 ③骨軟部腫瘍の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。 ④脳腫瘍の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。								
時間外学修に必要な 学修内容および学修 上の助言	 毎回の授業に対する予習、復習を必ず行うこと。 本講義で学んだ知識は、実際のスクリーニング、診断に必要であるため、標本をしっかり観察し、さまざまな細胞について十分な鑑別できなければならない。 1回の講義または実習につき、60分程度の予習および180分程度の復習を行うこと。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。 								
授業計画	第 1~2 回 第 3~4 回 第 5~6 回 第 7~8 回 第 9~10 回 第 11~12 回 第 13~14 回 第 15~16 回 第 17~18 回 第 21~22 回 第 21~22 回 第 23~24 回 第 25~26 回 第 27~28 回 第 29~30 回 第 31~32 回 第 33~34 回	リンパ節疾患リンパ節疾患りリンパ節疾患の造血器疾患の骨軟部腫瘍の骨軟部腫瘍の骨肉を軽減の		型、悪性リン 注細胞像 習② 理胞像 シ みの分子病理 構造 理胞像 シ き き き き き き き き を き き き を き き き き き き					澤白白郡山白澤澤郡澤白澤澤澤白今郡田石石司本石田田司田石田田田田石野司
評価方法 評価基準		学期末試験 8	0%			₽ # 24	*A、C 📛 ど知	ちゅう ちゅうしょう	みま、第4時間
教科書	『細胞診を学ぶ人のために 第6版』医学書院、 『スタンダード細胞診 第4版』医歯薬出版、 『細胞検査士細胞像試験問題集 第2版』医歯薬出版 『細胞検査士細胞像試験問題集 第2版』医歯薬出版								
関係する 他の科目	解剖組織学、病理学、生理学、血液学、免疫学、病理検査学、臨床細胞学総論 I 、臨床細胞学総論 I 、臨床病態学 I 、臨床病態学 I 0基礎知識を必要とするため、これらの科目を十分学修する必要がある。								
学生への メッセージ	細胞検査士養成過程を選考した学生にとっての必須科目である。細胞検査士認定試験に合格することを覚悟し、十分な学修を行うこと。								